



ひろしげ じゅいち

◆診療科紹介 救急センター センター長 弘重 壽一

当院の救急センターは「江東区豊洲周辺の二次救急医療の一端を担う」という使命の下に開設されました。緊急入院用の救急病棟（計25床）は3月24日の開院時からフルオープンにして診療にあたってきました。8月1日からは救急告示医療機関に指定されました。

診療体制

当院の救急センターでは、総合内科と救急外科に所属する救急センター専従医師が成人一般救急の総合診療を行います。また並行してこどもセンター、周産期センター、脳血管センター、循環器センター、消化器センターの医師が病医院からの依頼等に対する専門的な救急診療も行っています。



救急センター 初療室



昭和大学江東豊洲病院

第6号のトピックス

- ・ 診療科紹介
 - － 救急センター
- ・ 部門紹介
 - － 血液浄化室

【 一般救急診療 】

救急隊からの診療要請については、原則的に救急センター医師が内因性や外因性にかかわらず初療を行うという診療体制です。夜間は救急センター医師の他に、当院の内科医師と外科医師も救急外来診療に加わります。救急隊からの診療要請の連絡を受ける電話（ホットライン）は常に医師が携帯し、迅速に救急患者を受け入れるように努めています。

救急センター医師は初療を行った上で、専門診療が必要性かどうかの判断を行います。相談を受けた専門診療科は救急センター医師と協働して診療し、あるいは診療を引き継いで入院治療を担当しています。

【 専門救急診療 】

こどもセンター

新生児医療を含めて小児救急医療全般に対応しています。こどもセンター入院病棟は40床を有し、江東区では最大の小児病棟となっています。また当院は江東区で唯一の新生児集中治療室（NICU）を備えている病院で、呼吸・循環管理を中心とした集中治療を行います。小児外科は積極的に内視鏡手術を取り入れ、低侵襲の手術に努めています。

周産期センター

総合病院の周産期センターという特色を生かして、こどもセンター、救急センター、その他の診療科と連携して妊娠中の母体の緊急疾患に対応します。陣痛発来から分娩、分娩直後数時間まで同じ部屋で過ごすことができるLDR室が5床あり、最新の機器を備えてハイリスク分娩にも対応しています。

脳血管センター

神経内科医と脳神経外科医師がチームとして脳卒中の急性期診療にあたります。脳梗塞急性期の血管内治療による血行再建を積極的に行っています。脳炎や髄膜炎などの神経感染症疾患、けいれん、その他の脳神経救急を幅広く診療しています。



循環器センター

急性冠症候群では閉塞血管の早期再開通が最も重要ですが、当院では24時間対応で急性期心臓カテーテル治療を行っています。また不整脈診療にも力をいれています。循環器外科の虚血性心疾患に対する動脈グラフトを使用した手術は国内トップレベルのスタッフがそろい、また急性大動脈解離や動脈瘤破裂の緊急手術も高い安全性をもって実施しています。

消化器センター

最先端の内視鏡治療を行えるスタッフと器械を有し、すべての消化器疾患を対象として内科・外科の混成チームで診療と診断にあたっています。消化器疾患の緊急手術や吐血や下血に対する緊急内視鏡治療も24時間に対応できる体制をとっています。

救急センター稼働統計(平成26年4月～8月)						
	ウォークイン		救急車		総計	
		(うち入院)		(うち入院)		(うち入院)
平成26年4月	171	40	195	85	366	125
平成26年5月	177	24	274	70	451	94
平成26年6月	192	27	271	51	463	78
平成26年7月	228	39	341	87	569	126
平成26年8月	226	35	347	97	573	132

最後に

当院救急センターは、これからも総合診療と専門診療を両立させ、そして双方を上手に統合していく方向を目指します。臓器別の診療科が判然としない患者さんについてはまずは救急専従医が、そして原因が明らかな緊急疾患はその専門医が「至誠一貫」の心持で診療していきます。



救急病棟

◆部門紹介 血液浄化室 臨床工学室 大石 竜

血液浄化療法には、腎不全に対する血液透析療法だけでなく、血漿交換療法、血漿吸着療法、血液吸着療法など、血液中から有害物質を除去する治療法の全てが含まれます。血液浄化療法は、病態悪化を食い止め、生命救出に貢献できる画期的な治療法であると同時に、体外循環を必要とするため生命に関わる事故が発生しうる治療法でもあります。

当室は開院と同時に開設され、患者さんは透析合併症の治療目的にて地元江東区を始め、千葉県や遠くは沖縄県からもいらっしゃいます。診療は、ベッド数7床（感染専用個室1床含む）と限りがあるため、血液透析療法は主に入院患者を対象とし、月曜日から土曜日までの日勤帯の他、緊急時には夜間や休日も対応し、必要に応じて集中治療室にも出向して治療に当たっています。また、急性腎不全や慢性腎不全患者の透析導入や、腹膜透析療法、各種疾患に罹患した維持透析患者の入院透析の他、各種合併症を抱えた治療困難例や重症例に対応するだけでなく、血漿交換療法など血液浄化を必要とする全ての疾患に対応しています。

先にも述べさせて頂いたとおり、血液浄化療法は体外循環を伴うため事故が発生する危険性が常につきまといまいます。そのため、医師、看護師、臨床工学技士が密接な協力の元にチームとして機能し、安全を第一に専門性、迅速性を重視し、患者さんにとって最善の医療の提供を常に心がけています。



編集後記 脳血管センター 大中 洋平

江東豊洲病院が開院して約半年が経とうとしています。開院当初はもの寂しかった院内も大分活気づいてきました。病院の始まりから、そこに携われる喜びを感じながら日々過ごしております。先日の夜9階の医局窓から空を見上げると、とてもきれいな満月が浮かんでおり、つい見とれてしまいました。忙しく過ぎ去っていく毎日の中で、心にゆとりを感じる時間でした。忙しい時ほど余裕を持って、時には俯瞰的な見方をすることも大事であると感じました。



昭和大学江東豊洲病院 <http://www.showa-u.ac.jp/SHKT/>
 〒135-8577 東京都江東区豊洲5-1-38
 TEL03-6204-6000（代表）
 発行責任者：新井一成 編集責任者：長谷川真

